

平成 23 年 12 月 27 日

広島大学理事・副学長（教育担当） 坂越 正樹 殿
広島大学附属学校園長 各位

広島大学附属学校評価委員会

附属学校園の評価に関わる総括提言

当委員会は、本年 5 月より 8 回の会合を持ち、各附属学校園がよりよい教育と研究を進めるという観点に立って、各学校園を訪問し授業観察及び聞き取りを行うとともに、別紙のように各学校園への報告書を提示した。

本総括提言は、学校運営・経営、学校づくり・カリキュラム、教育研究、学校集団及び人事、施設・設備、保護者・地域社会との関係、また上級学校・広島大学との関係などの項目に関して、各学校園、大学本部及び附属学校部、各学部・研究科への全般的な改善点と要望をとりまとめたものである。

I 各学校園に改善を願う点

1：学校経営方針による学校運営と校長・副校長によるリーダーシップによる経営

- ①学校経営方針が明らかにされていないところがあり、明示していただきたい。
- ②経営方針が明らかにされていても、抽象的なものに留まっていたり、長期に同一のものを保持していたりしているところは、現代の教育に即したものに改善したり、具体的なものに改訂していただきたい。
- ③校園長・副校園長のリーダーシップによる学校経営を進める体制づくりを行っていただきたい。

2：学校目標や教育方針などの設定、現代的教育課題への取り組み

- ①学校目標や教育方針は各学校園が自らの教育の方向性を示したものであり、必ず提示するとともに、関係者に理解しやすく、わかりやすいものしていただきたい。
- ②学校目標や教育方針は現代の教育課題にその学校園がどのように取り組もうとするのかを明らかにしたものであるので、伝統的なものに固定化し硬直化させたり、単に装飾的なものに化したりせず、子どもたちの教育をよりよくするという観点から常に見直するとともに、各学校園の構成員や関係者に理解され、遂行されるようにしていただきたい。

3：特色ある学校づくり

①教育と研究の充実と相互連携の必要性

各学校園はそれぞれ優れた教育、特徴のある研究を進められており、これからも継続して行っていただきたい。その際、教育と研究を結びつけ、研究が教育へ生かされ、また教育の課題が研究の課題へ転化し、2つがスパイラルな関係になり

それぞれの学校園の特色となるように努めていただきたい。

②各学校園の個性と特色

1 1 学校園にはそれぞれ個性と特徴のある教育と研究があることはのぞましいことである。独自性を発揮して特色ある学校園づくりを進めていただきたい。

4：子どもたちの実態に即し、教育成長を促すカリキュラム設計

①学校カリキュラムの設計と実施

学校園カリキュラムこそ、各学校園の学校経営、教育方針を実現させる計画設計の場所である。学校カリキュラム計画を単元計画、シラバスで済ますことなく、独自で特徴のあるカリキュラムを設計・計画し、実施・達成するとともに、その検証・改善をおこなっていただきたい。

②学校園、子ども、地域実態に適したカリキュラム作り、設計

各学校園のカリキュラム設計はこれまでの教育と研究の実績の上に、各学校園、子どもたち、取り巻く地域社会の実態に即するとともに、子どもたちの成長を促進するものにしていただきたい。また、指導計画とともに評価計画を作成して、適切な方法で学力の評価をお願いしたい。

5：教職員集団のチームとしての組織化

①校長以下、教職員すべてがチームとなって、各学校園の教育と研究に取り組み、学校としての力が十分に発揮するように、組織化していただきたい。

6：人事とその交流の円滑化

①教職員の異動がいくつかの学校園では多く、長期的展望をもって行うことが難しい現状にある。大学採用と交流人事のバランスを図り、各教育委員会との人事交流に関しては担当の理事、副理事等と連携し、円滑で、計画的なものとしておこなっていただきたい。

②教職員の構成に関しては、学校経営・運営、また教育・研究からの面からも、年齢構成などに配慮し、様々な面でバランスのとれたものにしていただきたい。

7：施設・設備

①いくつかの学校園では、校舎が老朽化し、施設や設備が改善を要するところがある。附属学校支援グループ、大学本部など関連部署に、できるだけ改善の要求を行っていただきたい。

②古くなり傷んだり腐食したりしている校舎、施設、設備には十分な安全策を講じて、子どもたちに怪我などないように万全の配慮と注意をしていただきたい。

8：保護者、地域社会との関係

①学校園は教職員や子どもたちとともに、保護者、地域社会の関係者にも支えられているので、保護者、地域社会にもその教育や研究が理解されるようにしていただきたい。

9：上級学校（進学）との関係

①中学校、高等学校はいずれの学校においても上級学校への進学問題を抱えている。この問題は各学校の経営・教育方針にしたがって、生徒や保護者にわかりやすく、対応していただきたい。

II 大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに改善を願う点

1：附属学校園への配慮

- ①附属学校園は、就学前教育・幼児教育、学校教育をすすめるものであり、高等教育よりも一段の配慮を必要としている。この点に関する配慮を十分にしていきたい。
- ②附属学校園は大学教育の一環としての機能とともに、それぞれ独自の役割を進めている。各学校園の役割と機能を理解し、それぞれの学校園が特色ある学校園づくりが可能な環境整備と支援を進めていきたい。

2：予算措置の充実

- ①各学校園の校舎、施設、設備の改善のため、また教育・研究の促進のために、各学校園への予算を大幅に増額し、子どもたちが安全で安心して教育を受けることができる状態にするとともに、最新の設備に変えていきたい。

3：人事交流問題への支援

- ①各学校園の人事は教育委員会との交流となっている。相互の話し合いにより、お互いのメリットになるような対応ができるように、支援していきたい。

III 各学部・研究科に改善を願う点

1：各学校園への協力と支援の強化

- ①教育学部・教育学研究科をはじめとして、各学部・研究科は教育実習を中心にして、これまでも各学校園と密接な関係があり、いくつかの学部と研究科は各学校園の教育・研究活動に協力・支援をしていただいていた。これからもすべての学部・研究科が継続して協力と支援をしていただくとともに、それを強化し、相互の関係をより充実したものにしていきたい。

IV 総括提言の公開について

2月の拡大校長会議にて委員長から校園長、副校園長に説明した後に公開する。ただし、「保護者の声」の部分について公開の対象外とする。

広島大学附属学校評価委員会

委員長	池野 範男	(教育学研究科教授)
副委員長	豊田 博子	(尾道学園理事)
委員	阿部 弘章	(附属学校支援グループリーダー)
同	古賀 一博	(教育学研究科教授)
同	林 孝	(教育学研究科教授)
同	松浦 伸和	(副理事(附属学校担当)・教育学研究科教授)
同	三村 真弓	(教育学研究科教授)
同	若元 澄男	(比治山大学教授)